

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591200047		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホームつくし		
所在地	柳井市南町6丁目6-6		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町受理日	平成27年6月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「つくしんぼ大家族 心やすらぐ笑顔の家」を目指し、我が家で暮しているように、やすらぐことのできる家になるように、活き活きと活動し、笑顔がたくさん見れる家になるよう。そして、入居者、職員、家族、地域の方、入居者につながるすべての方、みんなを含めた大家族で、共に支え合って暮らしていけるように、つながりを大切に、一人一人の思いを大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入され、班長を務めたり、地域清掃など地域行事にも参加され、日頃から地域の一員として交流しておられ、利用者も地域のサロン活動やお祭りなどの行事に参加され、地域の方々と交流されています。隣接保育園との日常的な交流や声かけ、相互訪問、クリスマス会や花祭り、敬老会などと一緒にいる行事も利用者の楽しみや喜びとなっており、共に楽しい時が過ごせるよう工夫しておられます。自治会長や福祉委員を含めて近隣住民5名の方が緊急連絡網のメンバーに加入され、避難訓練にも参加されるなど、地域との協力体制を築いておられます。事業所の理念を実践につなげているかを全職員で話し合わせ、利用者一人ひとりの思いを尊重され、まわりの人とのつながりを大切に、我が家のようにやすらげる家づくりに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
y	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修の中で、理念の一語一語を噛み砕いて、一人一人の思いを抽出し、共有して実践につなげられるようにしている。	事業所独自の理念をつくり、玄関と職員のロッカールームに掲示している。管理者と職員は、ミーティングで理念の内容について確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進委員の、自治会長、民生委員、福祉委員と連絡をとりあっている。地域の行事にも誘ってくださり、地域のサロンやお祭り、保育園の行事等に参加できた。	自治会に加入し、地域の清掃作業に参加したり、今年度は班長として地域活動に取り組んでいる。利用者は、地域の祭りやお寺の花祭り、地域のサロンに参加して地域の人と交流している。散歩中に公園で遊ぶ子供たちと交流したり、腹話術、紙芝居などのボランティアの来訪による交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところできていない。運営推進会議にて、地域の介護の事業所として、地域に役立つことがないか投げかけている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで、自己評価、外部評価を実施する意義を説明している。評価を受ければこそ、問題点を明確にでき、前向きに改善することができている。	管理者は、職員に自己評価及び外部評価を実施する意義をミーティングで説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらい、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、事故発生に備えた応急手当や初期対応の訓練や研修、インシデント帳の充実と活用、本人の思いを把握する為の記録などの改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、外部評価の説明を行ない、結果を全員に配布している。また、目標達成状況を報告し、色々な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	自治会長、民生イン、福祉委員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て、2か月ごとに開催している。利用者の状況や活動報告、外部評価の説明、もくひょう達成状況などを報告し、意見交換している。月1回のお楽しみデイの提案など、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者が運営推進委員なので、運営推進会議には必ず出席している。その他にも電話等で相談等行っている。	市担当者とは、運営推進会議で事業所の実情や取り組みを話し合う他、日頃より連絡を密に取り、電話や直接担当課に出向いて相談し助言を得るなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっており、入居者が自分の意志で開けることはできない。身体拘束につながることを皆で認識し、外に出たがった時には、個別で外の散歩等行ったり、入居者に身体拘束を意識させない努力をしている。	身体拘束については、内部研修で学んだりミーティングで話し合い、全職員は正しく理解しており、言葉による禁止も含め、身体拘束をしないケアを行っている。安全への配慮から玄関はオートロックになっているが、外に出たい時には、個別に外出に付き添うなどの配慮をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員全員で学んだ。不適切なケアが虐待につながっていくことを、皆で確認した。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス計画作成者2名は、日常生活自立支援事業や、成年後見制度についての研修を受けている。また入居者の中に地域福祉権利擁護事業を利用している人がおり、身近に感じている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分な時間をとりしっかり説明を行っており、家族等の質問にも応じている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「投書箱」を置いている。運営推進委員会で家族の苦情や要望をきいている。又、苦情や相談を気軽に言っただけの関係作りを心がけている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。面会時や電話、運営推進会議時に家族からの意見や要望を聞いている。トイレの高さを検討したり、利用者の声に対応策を検討するなど、運営に反映させている。玄関に投書箱を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全職員でミーティングを行なって、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞いている。	月1回全職員でミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、日常の業務の中でも職員が意見や提案を言いやすいように関係づくりをしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する目配りをし、努力している姿には言葉として称賛を伝えている。何事も現場職員の発案、企画、実行を尊重し、やりがいを持てるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修の機会を提供している。内部研修を月1回行い、職員の資質向上に努めている。	職員に外部研修の情報を伝え、参加の機会を提供している。内部研修は、年間計画を立て、身体拘束、虐待、理念、感染症対策、口腔ケア、記録、転倒等の対応などについて、月1回のミーティング時に実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳井市の介護事業所連絡協議会、ケアマネ連絡協議会に入会し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りや、勉強会を通じて、質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、本人とお話ができるようにして、不安が早く解消でき、本人の思いや、要望が聞けるよう心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談・説明は、十分に時間をかけて行っており、家族等の不安なこと、要望等に耳を傾けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援をよく把握し、他のサービス利用を含め、情報提供を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の持っている力を十分発揮できるよう、一緒に色々なことを行なうように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「つくしんぼ大家族・・・」の「大家族」には、入居者全員、職員全員のみならず、入居者につながる家族も含めており、家族との絆を大切にしよう支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容院等、できるだけ馴染みのところに通えるよう心掛けている。	かかりつけ医の受診や馴染みの美容院への利用、同級生の来訪、同級生の入所施設への訪問など、馴染みの関係が継続できるように支援している。家族の協力を得て、自宅や墓参りに出かけている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけホールで皆と一緒に過ごし、レクリエーションや共同で作業したりできるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先、入所先を訪問したり、家族に連絡したり、連絡をもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の要望を聞き、ケアプランを作成している。日々の生活の中から意見、要望を聞ける様努めている。	入居時のアセスメントを活用している他、日常生活の中で利用者に寄り添って聞き取った希望や利用者の行動や言葉などを生活記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談時、時間をかけ聞いている。又、日々の生活の中の言動や行動からや、ご家族からの情報などで、把握を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の言動や行動からや、状態の把握を努める共に、記録などを参考にしながら状態把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、職員全員で情報交換、検討しそれぞれの意見を反映しよりよいケアになるようにしている。	月1回全職員でカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、状態が変化し得た場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録と業務日誌に、日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を記入し、情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族のニーズに答えられるよう、個別に買い物、馴染みの美容院等、行けるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カフェや図書館、郵便局、市役所等、できるだけ一緒に行って、豊かな暮らしができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、各自のかかりつけ医への通院介助を行ない、主治医と連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に利用者それぞれのかかりつけ医とし、職員が受診の支援をし、主治医と連携を図っている。家族の協力を得ての受診時には、必要な情報を提供している。月1回の訪問診療や月1、2回歯科衛生士による口腔ケアを受ける利用者もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡帳の活用や、直接の相談にて、入居者の状態を伝え相談し、適切に受診や看護を受けられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いも兼ねて訪問し、病院関係者との情報交換、相談すると共に、家族と連絡を取りながら、可能な限り、退院時の受け入れ出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合には、ホームでの対応が困難なため医療機関に入院することが多い。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、状況の変化に応じてそのつど家族や主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応のマニュアルがあり、インシデント帳を作り再発防止に取り組んでいる。急変や事故対応の訓練を全員で行っている。	インシデント帳に記録して、事故に結びつかないように取り組んでいる。事故発生時には報告書に記録し、その都度話し合い、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。看護師による応急手当や初期対応(誤嚥、転倒、骨折、発熱等)訓練などを実施し、緊急時に備えている。	・インシデント帳の活用 ・応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。一昨年初めて、地域の住民にも消防訓練に参加していただいた。	年2回消防署の協力を得て夜間や洪水時の避難、消火訓練、避難経路や緊急通報装置の確認、緊急通報訓練等を実施している。運営推進会議のメンバーや近隣住民5名が緊急連絡先となっており、訓練時には事業所玄関まで誘導した利用者を避難場所に誘導するなどの訓練に参加しているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だということを念頭におき、自尊心に配慮した言葉かけや対応ができるよう心がけている。	職員は、研修で尊厳について学んでおり、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声掛けを心がけ、自己決定が出来る場面作りを実施している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し入居者一人一人のペースに合わせた過ごし方を心掛けている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の始まりに鏡を見ていただき、くしで髪を整えたりしてもらっている。着る服は出来るだけ、自分で選んでいただくように心がけている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理では職員と一緒に食材を切ったり味見をして頂いたり、盛り付けをして頂いている。職員も一緒に食事をし、会話しながらゆっくり時間をとり、楽しく食事ができるように心がけている。	法人の栄養士がバランスの取れた献立を立て、三食とも事業所で調理している。利用者は、ゴボウのさがきなどの野菜の下ごしらえや味見、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話をしながら、一緒に同じ食事を楽しんでいる。桜餅やおはぎ、お月見団子、クリスマスケーキなど季節のおやつや午後のおやつ(ホットケーキ、プリン、クッキーなど)を手づくりしたり、近くの公園でお弁当を食べたり、ドーナツやケーキを食べに出かけたり、レストランで外食するなど、食べることを楽しむことができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は栄養士が立てており、栄養のバランスがとれたものになっている。苦手な食材がある時は違う食材を提供したり、本人の体調や状況に合わせて食事の時間をおいたりする支援をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。夜寝る前、朝起きてからも、口腔ケアを行なっている。不顕在性誤嚥性肺炎をわかりやすく入居者に度々話して、口腔ケアの大切さを実感してもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意の訴えが無い方でも、排泄のパターンを把握したり、本人の様子を観察し、トイレ誘導している。夜間失禁のある方もおむつを使用せず、声かけにて対応している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックして、水分摂取や食物繊維の多いものを提供したり、工夫している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日10時頃から15時頃に、本人の希望に合わせて入浴して頂いている。	毎日10時頃から15時頃まで一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しめるように支援している。入浴をしたくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を交代して声かけするなど工夫して対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっておらず、一人ひとりの生活習慣に合わせて入眠を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるよう、服薬リストを作っているそれぞれの薬の説明もファイリングしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を生かし、それぞれの趣味や役割を行えるよう支援している。	習字、ぬり絵、季節の貼り絵や飾り物、雑巾縫い、手芸、折り紙、編み物、パズル、カルタ、トランプ、百人一首、クイズ、ことわざ遊び、演歌、歌謡曲、カラオケ、歌詞を書く、足の体操、ゲーム、DVD視聴、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お膳ふき、テーブル拭き、野菜づくりなど、利用者一人ひとりが好きなことを楽しめるように支援したり、活躍できる場面をつくり、生活に張り合いを感じるよう支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる外出をしたり、全員で外食をしたり、少人数でケーキを食べに行ったり、買い物に行ったり、地域の祭りに参加している	散歩で近所の公園に出かけ、子供たちの遊ぶ姿を眺めたり、鯉に餌をやったり、地域の祭りに参加している。季節の花見(梅、桜、菖蒲、紫陽花、コスモス、紅葉など)や公園へのドライブ、喫茶店やレストランでの外食など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員か家族が管理しているが、一人一人の希望や能力に応じて家族と話し合い、少額のお金を自分で管理している方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との繋がりが保てるよう、電話や手紙のやりとりを大切に支援している。入所当初からずっと定期的に電話をかけてくる遠方に住む家族もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に快適な室温で暮せるよう温度と湿度に気を配っている。玄関や居室、トイレ等にトルペイントを飾り温かみのある空間を作っている。又、入居者と共同作業で、季節季節の飾りつけを行なっている。	共用の空間は明るく、デッキの大きな窓からは外の景色が見え、季節の移り変わりを感じることができる。壁や廊下は木調でぬくもりがあり、トルペイントの案内板や居室プレートが温かみを感じさせる。居間には、テレビやソファ、座面が畳のいすが置いてあり、利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごせる工夫をしている。台所からは、茶碗を洗う音やご飯が炊ける匂いがして生活感を感じることができる。加湿器付きの空気清浄器を設置して、快適な室温や湿度で過ごせるように配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファー、食卓、テレビがあり、一人ひとりが思い思いに過ごせる工夫をしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家具等を持ち込むなどで、ベッド、押し入れ、カーテン等は備え付けの物を使用している。	居室には、テレビや座椅子、籐椅子、衣装ケース、ハンガーラック、卓袱台とお茶セットなど、使い慣れた馴染みのものを持ち込み、家族の写真や思い出の主審、自分で案だ座布団、習字の作品、季節の飾りものを飾り、その人らしく個性のある居室づくりをして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、廊下、居室入口などに手すりを配置している。歩行器、シルバーカーがすべての場所で使用でき、安全で自立した生活ができるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームつくし

作成日: 平成 27年 6月 29日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	インシデント帳の活用	インシデント帳を活用し、事故を未然に防げるようになる。	月1回のミーティング時にインシデントについて話し合いの時間を設け、それぞれの案件について事故を未然に防げる対策を話し合う。	3ヶ月
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	応急手当や初期対応の定期的な訓練をすることによって、全職員が緊急時の対応が適切に行えるようになる。	全職員が参加する年2回の避難訓練後と、ミーティングの内部研修において、応急手当や初期対応の訓練を行う(年2回)	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。